公益信託世田谷まちづくりファンド

第２０回助成事業　災害対策・復興まちづくり部門　審査講評

遊びとまち研究会

質疑にもありましたが、世田谷での多世代遊び場マップ作りとは違う状況が、被災地にはあると思います。被災前のことを尋ねることには、提案される意義と同時に危うさも感じます。また多世代遊び場マップが被災地の復興にどのように役立ち、世田谷のまちは何を学ぶのか、私にはまだよく分からないところもありました。報告会では、そういうことだったのか、というお話を楽しみにしています。

今回の申請内容は、地域の人々と協力しながら遊び場マップを作成してきたこれまでのノウハウや知見が生かせそうであり、子どもの遊びを通じてまちを考えるきっかけにする、世田谷らしい活動だと思っています。また、現地とのつながりや大学生の若い力も十分に期待でき、好感が持てました。いくつか心配としては、被害に遭った子どもたちにどう過去のことをヒアリングしていくのか、また、現地に行ける回数や期間が限られた中で、ヒアリング結果をまとめて遊び場マップの形まで仕上げることができるのか、といった点です。無理のないよう、現地のニーズや状況に沿いつつ、きちんとしたプロセスを経て進めていってほしいと思います。また、つくっておしまいにならないよう、できたマップの生かし方や現地とのつながり方についてもぜひ並行して検討を深めていってください。一年の活動の成果と世田谷への提言を楽しみにしています。

遊びをテーマに被災地支援の仕組みを考えられたのはユニークだと感じています。その仕組みに被災地と世田谷の人材交流も織り交ぜられているので、ぜひ情報交換などを期待しています。今回の活動を経て「仕組み」が確立したら他でも応用が出来そうなので、そういったことも意識されてはいかがでしょうか。

唯一心配なのが心の問題で、遊び場を思い出すことがつらい思い出を引き出すことにならないような配慮が必要だと感じました。

私は昨年末にある被災地で、住宅再建意向のヒアリングの一環として被災前の住まい方を数十世帯の方々に伺いました。以前の住まいが跡形もない世帯やご家族が亡くなっている方に前のことを思い出してもらうのは心苦しく、また口も重く、必要なことだけ簡潔に聞くしかありませんでした。ただ、被害が少ない場合など、以前の住まいのことを話したがっている方もいました。このようなことは皆さん想像できているとは思いますが、現時点で「思い出してもらう」ことについては慎重の上にも慎重を期すことが求められています。それを踏まえてよい調査結果が得られることを期待しています。

被災地において、子どもの遊び場、遊びが、子どもにとっても大人にとっても非常に大切なこととわかっています。遊び場マップづくりがこの時期なのか？という疑問を少し感じつつ、若い人たちの感性で、被災地の子どもや大人と丁寧に交流しつつ、ヒアリング等をすすめてほしいと思いました。とても期待しています。

子どもを含め多世代にわたる協働による遊び場復興活動という他に例を見ない活動が興味を引きます。
遊びを研究しさらに、目で見えるものができるよう今後の活発な活動を期待します。

自分たちの町を思い出し記録していくことは、こども達にとって辛いけれども、おそらく新しいまちづくりを考える上でとても大切なことなのだろうということは理解できます。私には今の時期が適切かどうか判断できませんが、世田谷で遊び場マップをつくってきた経験を被災地に活かす活動に期待しています。この活動に関わったこども達の声、地域のおとな達の声をぜひ聞きたいです。報告を楽しみにしています。